

平成24年度

第5回 鶴岡地域審議会
会議録（概要）

期日：平成25年1月28日（月）

場所：鶴岡市職員研修会館

平成24年度 第5回鶴岡地域審議会会議録（概要）

○ 日 時 平成25年1月28日（月） 午後3時～

○ 場 所 鶴岡市職員研修会館

○ 出席委員（五十音順）

五十嵐吉右衛門、伊藤俊昭、稲泉眞彦、奥山春名、後藤輝夫、今野毅、今間智寛、齋藤春子、菅原衛、竹内峰子、竹田理英、田村勇次、茅野進、早坂剛、本間仁一、三浦惇、山田登

○ 欠席委員（五十音順）

菅隆、丸山絢子、若木敬一

○ 市側出席職員

企画部長 秋野友樹、企画部次長（兼）地域振興課長 三浦総一郎、
地域振興課長補佐 武田壮一、地域振興課地域振興専門員 三浦裕美、
地域振興課主任 前田哲佳

○ 公開・非公開の別 公開

○ 傍聴者の人数 なし

1 開 会 （午後3時）

2 あいさつ

3 報 告

（1）今後の進め方について

（2）その他

4 分科会

「地域コミュニティ分科会」

「産業経済分科会」

5 そ の 他

6 閉 会

- 1 開 会 (午後3時) 進行：三浦総一郎地域振興課長
 - 2 あいさつ (早坂剛会長、秋野友樹企画部長)
 - 3 報 告 (議長：早坂剛会長)
- (1) 今後の進め方について (説明：三浦総一郎地域振興課長)

○ 早坂剛会長 進め方について何かご質問ございませんか。

○ 齋藤春子委員 進め方ではなく別のことですが、今日資料を持ってきていませんが、総合計画の資料の中に、他の地域は全部地域審議会のことが書いてあったと思います。総合計画審議会に出た方はお分かりかと思いますが、鶴岡地域は何故ないのかということと、今地域審議会での話し合いが自分の勉強にもなりますし、とても大事なことを話していると思います。市長に提言となりますと、鶴岡地域だけの問題なのか、鶴岡市としてのそういうバランス的なものなのか、この間の総合計画で聞く時間がなかったので、説明をお願いします。

○ 三浦総一郎地域振興課長 提言につきましては、鶴岡地域審議会ですので、鶴岡地域に焦点を絞って話しをしていただき、他の地域審議会からも同じような形で提言をするということでございます。

○ 三浦裕美地域振興専門員 総合計画では地域振興事業として各地域のこれまでの取り組みと今後の展開というご説明のことかと思いますが。各地域には地域振興ビジョンがあり、その取り組みとして地域活性化事業を実施しています。鶴岡地域の場合は地域活性化事業としての予算がなく、総合計画全体の中で事業を実施しているというところでございます。

○ 秋野友樹企画部長 鶴岡地域以外の各地域は記載があり、鶴岡地域も記載した方がいいのではないかという議論はあります。それにつきましては、今後考えてみたいと思います。

それからただ今申し上げました地域振興ビジョンでございますが、合併してから旧町村が、それぞれの地域の振興ということで議論をして出し合い策定し、それに対応する形での地域振興策として地域活性化事業として予算措置がされ、取り組んでいる状況でございますので、地域審議会への対応ということではなく、地域振興ビジョンに対応してということでございますが、それも含めて今後検討していきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

○ 齋藤春子委員 地域審議会で話したことが資料に出ているのかと解釈していたしましたので、私の隣に地域の方が5人並んでおり、鶴岡が無いのはどうしてかと言われた経緯もあるものですからお話しました。

○ 秋野友樹企画部長 ただいま申し上げたとおり地域振興ビジョンと地域活性化事業に対応してということでございますので、並べて出せるかということは少し難しいところがありますが、検討させていただきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

○ 早坂剛会長 是非ご検討ください。よろしく願いいたします。それでは分科会に移ります。

分科会

<地域コミュニティ分科会> 進行：武田壮一地域振興課長補佐

座長：山田登分科会長

○ 三浦裕美地域振興専門員 (資料説明)

○山田登分科会長 分科会テーマについて、どのような課題テーマを設定するかということで、今までいろいろ意見を出し合ってきたものをまとめていただきました。最初に早坂会長から人口減少を大きいテーマとして掲げていく必要があるのではないかとありました。その中でも今までは高齢者については、いろいろ対策がされているが、子どもの数が少なくなってきた状況の中では、子どもへの対策を重視していく必要があるのではないかとこの話しがありました。この分科会では、コミュニティの活性化という大きいテーマを分科会のテーマとしておりました。今後の論議の展開として、住んでよかったという地域づくり、幸せに暮らすことができる地域づくりに向けてというようなまとめ方になったかと思いますが、これで良いということではなくて、話し合いを進めて進化出来ればと考えております。この地域に生活して良かったというような地域づくりに、今後進めていくという方向性を持って話し合いを進めてきたいと思っておりますので、よろしくお願ひ申し上げます。

○ 本間仁一委員 非常に難しいテーマです。地域コミュニティ基本方針策定の委員もしています。旧市町村を交えた鶴岡市管内には468の集落があり、そのうち50世帯以下の小さい集落について、どのように運用していくかについてもいろいろ議論しています。皆さんは大きい所にいらっしゃると思いますが、この鶴岡地域審議会では小さい集落がどの程度あり、どういう仕組みになっているかを捉えていない中で、我々が一方的に今住んでいる所を参考にして考えるととっても、鶴岡地域全体としての議論がかみ合わないような感じがします。鶴岡地域にある集落の数がどのぐらいあって規模がどれくらいでという、基本的なことが分からないと、自分の住んでいる所については、ある程度言うことが出来ますが、全体的なことを捉えれないと難しい感じがします。

○ 三浦裕美地域振興専門員 468集落の中で、鶴岡地域で50世帯以下の集落の数や状況について、次回まで準備させていただければと存じます。

○ 本間仁一委員 コミュニティ基本方針策定の中で、旧町村から選出された委員の方からいろいろな話しを聞きます。各集落の自治会、住民会、区長会など名前が違いますが、維持されるのがなかなか難しくなっているという認識を持っているところが、かなりあります。この鶴岡地域審議会として、鶴岡地域の中では、そういうところが無いのか基本的なことが分からないと説明を聞いて思いました。

○ 武田壮一地域振興課長補佐 本間委員は郊外地の自治会の代表でございますし、山田分科会長は町内会連合会の会長でありますので、そのようなお立場から、また視点から本日

はご意見を頂戴できればと思っております。数というより組織の状況についてのいろいろなデータは次回まで整理させていただきます。

○ **本間仁一委員** コミセンの下には小さい集落が結構あり、その網羅した数が分からないと。全体的な地域づくりというのは大きい一括りのものではなくて、小さいことの積み上げが大事だと思っておりますので、その辺が分からないとなかなか難しいのかなということです。

○ **三浦裕美地域振興専門員** コミュニティ推進課でまとめている資料を次回まで準備させていただきますが、鶴岡市全体の地域づくり、コミュニティ組織としての地域づくりをどうするかという大きいところからではなく、こうすればもっとどんどん人が集まってくるようになるなどの視点からのご意見をいただき、日々の活動がもの凄くいいことなので、他のところの皆さんにも参考にしていただくという観点からお話をいただいて、積み上げていければと考えております。

○ **山田登分科会長** 市街地は小学校単位ごとに町内会が一つの固まりになっており、一つずつコミセンがあります、第二学区の場合であれば、第二小学校を中心にして町内会連絡協議会があります。20町内ですので町内会長は20名。それから第一から第六まで町内会があり、それを全部合わせると102になります。単位町内会にもいろいろ問題はあります。鶴岡市の真ん中辺でも、空洞化になって世帯数が極めて少なくなってきて、町内会として維持できない。または役員のみ手もいないというところが出てきております。町内の区画は昔のままですが、人口減少に伴ってそこに生活している人口動態が変わってしまっているということからの、町内会の役員や経費の問題とか様々あって、整理統合の必要があるのではないかという話しも出たりします。例えば小学校の運動会であれば、学校のほうで思い切って、この町内会は統合して一緒にやりなさいというふうに出来きるとは思いますが、町そのものは簡単に一緒に出来ません。そういうことで、実態を把握するということが大変重要な時期にきているのではないかと。これ鶴岡市が非常に大きくなっているのです、山間部とか平野部の状態とか様々の問題もあるのではないかなと思っておりますが、ただそういった町内会、自治組織の数が地域ごと、コミセン単位でどういうまとまりがあって、数がどうなっているのかということは、コミュニティ推進課で把握しておると思っておりますので、そういう資料を借りてくれば分かると思っております。

○ **茅野進委員** 住んでよかった、幸せに暮らすことが出来る地域づくりについて、私はコミュニティで狙っている基本的な考え方だと思っております。これまでの議論の総論としては全部理解が出来ますが、どのように、誰が、何をするかという各論になると、非常に難しいのではないかと思います。一例ですが、今年度から行政と民間団体と福祉団体が一緒になり、ケアネットワーク推進会議という一つの組織の仕組みづくりは出来ましたが、それを始めたことで、お互い同士の見守り支え合い活動がより充実したと思っております。いろいろな情報交換をどこでするのか、こういう仕組みづくりをどうつくるのかと、総論ではいつも出ますが、誰が、どこで、どんな仕組みをつくるかということは、見えてこなかったと思っておりますので、各種民間団体を含めての仕組みづくりを作っていないと、お互いの連携が出来てこないだろうという点では、これまでの議論からということでは、大変いいのではないのかと思

っております。これから、皆で細かく情報交換をしながら進めて欲しいと思います。2番目としてコーディネーターをどうするかということです。町内会もまちづくりもコーディネーターをどのように、誰がどうするか。それには福祉のリーダーの研修会を行政でやったようですが、そういうものを通しながらもリーダー養成を具体的に進めていく必要があるということを感じます。3番目ですが、福祉マップと防災マップを一緒に作りましょうと言っても、それぞれ別だという考えがまだあるようなので、そういう縦型の意識を脱却していくかということが、これからの大きいまちづくりの、コミュニティづくりの基本ではないかと、私から3点申し上げます。

○ **本間仁一委員** 比較的団体が安定して維持されている団体の考え方としては、非常にいい意見だと思えますが、先ほど言ったように、鶴岡市管内の自治会もいろいろあります。小堅は二つでコミセンを組織しています。その他に小さい集落が集まって一つのコミセンを作っているところもあります。大きい組織としてはいいのですが、小さい組織の中には自治会や住民会等の維持さえ、なかなか難しくなっているような中で、これからの地域づくりというものについては、そういう地域の住民会、自治会等の維持をどうしていくかということがまず基本にあって、それがこういうようにしていけばという形になった時に、その次にこういうことが出てくるのではないかと考えていますので、50世帯以下の小さい集落で、維持することが難しくなっている集落が、基本的にどのようになっているが分からないと、なかなか議論が出来ないのかなと思ひまして先ほど申し上げたのです。鶴岡市内であつてもいろいろ話を聞きますということを言っているのです。立派な組織のある町に住んでいらっしゃる場合はいいのですが、なかなかそこまで至っていないと言ひますか、維持に関して厳しいと聞いているものですから、ここでいろいろ議論されるようなことにまだいないようなことが、たくさんあるのではないかと聞いております。

○ **竹田理英委員** 資料3ページに、若い世代が子どもを産み育てやすい環境とありますが、鶴岡市の環境は自然も豊ですしいいところで人も優しい。他県から来た方も鶴岡の人はとても優しいし住みやすいとお話でした。また私も子どもを育てた経験上、義務教育も素晴らしい先生方がおられましたし、ご父兄も地域も良かったです。ただ、今、小さなお子さんを産んで、育てているお母さんのお話を聞くと、保育園に入られても、世帯の収入によって保育料に格差があるということです。核家族世帯でなく、おじいちゃん、おばあちゃんがいる世帯だったり、子どもの数が多いと高くなるといった部分で、補助があつたりしても少し高いとかあるようです。それから自分の住んでいる地域の保育園に入れなくて、遠くの保育園に行っているけれど、入れるからありがたいということがあつたようですが、その辺を、今後課題の部分があつたら良くしていく。自然や環境などと言うより、まず市としてしなければならない補助などの施策について考えていただければと思います。それから、女性が仕事を続けていく中で、子どもを産んで義務教育の間まで6年間に、ここで子どもを仕事をしながら育てていけるかということに、いろんな意見を言えるような部分があればと思います。義務教育になれば、学童も前より増えているようですが、その辺が充実されれば、もっと産み育てられる地域になっていくのかなと思ひました。

空き家の活用は少なく利活用という考えに解決の糸口が見出せないかと、先ほどありましたが、空き家について、誰も住んでいない空き家なのか、もう危ないという空き家なのか、

その辺りを教えてください。

○ **三浦裕美地域振興専門員** 今回の資料の利活用は、家そのままになっており、人が住んでいない場合を想定していました。

○ **竹田理英委員** 山王町のイチロージ商店さんの取り組みや、この間の寒ダラ汁の時でしたが、銀座通りの旧エビスヤ薬局さんも大学かNPOさんかが取組んでいるというお話でしたが、そういうことも利活用になるのかなと思ったものですから。

○ **山田登分科会長** 空き家の実態についても、建築課でいろいろ調べたりしています。

○ **武田壮一地域振興課長補佐** 空き家については、たたき台の一つとして今までの意見から出させていただきました。

○ **伊藤俊昭委員** 今の空き家もいいのですが、一つは人口が減っているのであればどういう対応策があるのか。例えば何とかコンも市でやっていますが、その成果も聞いていませんし、方法が良くないのではという人もいます。消防の立場で言うと、鶴岡全体で、3000人ほど団員いて、その中にも独身者がおります。その中には女性の方々もいると思いますが、やはりきっかけがないという話しです。子育ても教育もすごくいいのですが、その前に、まず人口を増やすことを全員で考えていこうという。子育てをする前に、子どもを産んでもらう手段を考えないと人口が減っていくばかりです。いろいろ項目が出ましたが、大きい柱で2本か3本の柱を一つに絞らないと実になっていかないと思います。そして、団体や各組織から、いい活動事例があれば出してもらい、こういう活動をするとスムーズに年配者も若い人も上手くいったという事例をもとに提言したほうがいいと思います。そういうことを提言して、いい方法や智慧を出し合って市から動いてもらうとか、全国のやり方をいろいろ調べて市に提言をしていくのだと私は思っています。人口減少を解決するような話し合いをもっとしたほうがいいと思います。

○ **山田登分科会長** 第一番に人口減少の歯止めをとということで、絞ったほうがいいのではないかということです。子育てというのも、保育料が高いといった問題もあるようです。

○ **後藤輝夫委員** これまではコミュニティの現状や実情について、委員の立場から感じていることが出されて、問題点として資料にまとめられた内容が、これまでの分科会であったと思っております。ところが、今日は全体会で早坂会長が人口減少が問題であると指摘されましたし、まとめの資料のこれまでの主な意見の最初に人口減少とあります。今伊藤委員からあったように人口減少の歯止め、または人口増加のために何をやるのかということで、働く場が今後確保できるのか、確保するためにはどうするかということが、人口問題から少子化のあらゆるものの根本になっているのではないかということです。これが大きなテーマで、コミュニティ分科会と産業経済分科会とが一緒にならないと、このテーマの解決にはならないということを最初に申し上げます。それには、伊藤委員も言っていましたが、結婚すべき対象の年齢層が、結婚しないところに問題がある。その背景は働き場が確保されていない、

仕事がないということが原因であろうと思います。2番目に子どもの教育、子育てとありますが、子どもを産むための施策、そして、生まれた子どもを育てるための施策、そして、成長にともなう子どもの教育の問題というようになっていくのだらうと。なぜ結婚しないかということは、点のような捉え方ですが働く場がない。仕事がないれば経済的に生活が厳しいわけですから、自分の生活が厳しければ新しい家庭をつくることも、子を産み育てることも出来ない。それから、高齢者に対してかなり手厚いのではないかという話もあります。高齢者を代表して必ずしもそうではないことは申し上げさせていただきます。それは、保険や医療によって長生きになりましたが、必ずしも青年時代や壮年期のような、健康な身体ではありません。若い人が仕事もなく、年老いた親たちを見て、さらには結婚し家庭を守り子を産み育てとなると大変なことです。地域の環境はいいと褒めても仕事がないのが現実。昨年も鶴岡の中核的な産業が大きなダメージを受けたこともあります。地元の仕事がなければ、中学校、高等学校の教育にしても、地元に着するようにこの地域を開発するような意気込みを持った人たちの、教育を起点にしなければみんな流出してしまいます。鶴岡を振興するという意気込みで、それは子育てのための対策もそうですが、この鶴岡という環境に産業を興すための、最重点施策を実施してもらうことを提言しなければ、この問題は解決しないのではないかと考えています。若者が安心して働く、安心して子育てができるし、親のことも心配なく仕事が両立できる。鶴岡の環境を生かした産業や雇用、右肩上がりになるためのことをやらなければならない。日本で最先端の鶴岡市をつくるためであれば、思い切った施策を考えていくことも必要だと思えます。

○ **山田登分科会長** 人口を増やすには、やはり若い人達が安心して、生活できる職場が必要であると。それには産業経済分科会と一緒にあって、論議を進めなければならないのではないかと考えたと思います。何か他にご意見があればお願いします。

○ **齋藤春子委員** 後藤委員の意見は賛成ですが、やはり大学に入れるなら入れたいという考えは傾向としてあるのではないのでしょうか。確か山形県の進学率が全国でも高かったと記憶しております。よく学校に入って卒業して地元に戻ると言いますが、なかなか戻ってこないという人が多いのかなと感じます。そうすると、鶴岡に仕事場がないということはあるかと思いますが、子育てや家族の問題も、昔は親子で一緒に暮らして、子育てに対しても親からいろいろ教えられながらしていたと思いますが、今は違います。それから、私は、せめて大学は出てという考え方が、子ども達の成長には大事なことです。子どもにも親にもあるのかなという感じがあって、大学を出ていないからというような言い方をされる方もいらっしまったことがあったので、そう感じました。

○ **山田登分科会長** 人が地元に残る。生まれて育ってまた地元に戻るという基本的な考え方を大事にしながら、人づくりをしていく必要があるのではないかと、また人口が減らなければ空き家も増えないわけですので、こちらの問題も解決するという。今回は出ていませんが、お墓の問題もかなり潜在してあるのではないかなと思います。地域が崩壊しないように、やはり一番大事なのは、人が生まれて、勉強して、またここに戻ってきてここで仕事をして、地域の発展に尽くせるような鶴岡にしていく必要があるのではないかと、ことだと思えます。皆さんの発言からそう感じております。

○ 齋藤春子委員 市役所で婚活事業をしていますが大瀬でも2回ほどしました。定員がオーバーして抽選だったようです。皆やる気があるのです。参加した方に雰囲気を感じましたが、皆さん積極的とのことでした。今までチャンスがないのか遠慮しているのか、やれば集まります。積極的になれないのは親の教育に問題があったからなのかとも思ったりしました。

○ 後藤輝夫委員 例えば大正時代の日本人の平均寿命は男性42歳、女性43歳。その頃は人生50歳というのは夢の時代でしたので、その当時の家庭を、今日の家庭に当てはめて、親子と一緒に暮さないから、親の教育や戦後の教育が悪いからとかいうことではないことを、私は高齢者の立場から高齢者の集まりで言っています。今若い人達が苦勞しているのは、自分自身のことも出来ないほど大変な状況にあるから結婚しないのであって、結婚できる環境をつくるには、やはり、私達と一緒に生活を前提とすることではなくて、例えば孤立化している高齢者には、グループホーム的な生活環境を提供するとか、若い人達には安い賃金で生活できるアパートの提供をすることとかということを経験にすることであると思います。地元に着させるという問題は、仕事と住居の環境の整備ではなかろうかと考えでありますから、私は鶴岡が鶴岡らしく、若い人達が定着するための施策を出来る範囲でやることです。もっと市独自が経済的に足腰を強くしていくためには、産業、仕事、住居環境、交通アクセスの問題も含め非常に重要であると思います。バス路線が廃止されて交通事故が増えれば、免許を返せとなりますが、いくら平均寿命が長くなっても、丈夫な足だけあっても、どこまでも歩けるわけではありませんから交通問題も関わってくるのです。

○ 武田壮一地域振興課長補佐 人口増への取組みとして、婚活事業への意見がございました。例えば昔はお祭りの場で男女が知り合い結婚に結びつくというように、いろいろな出会いの場がありましたが、現在はそういう場もないとのことで、自治体として出会いの場を提供しようということから始めております。婚活事業は地域振興課が担当しており、今年度で2年目です。森の婚活物語と称して男女15名が森の中を歩きながら、交流をして結婚に結び付けていただくという取組みをしました。カップルが成立しても個人のプライバシーもありますので、追跡調査はしていません。また各地域庁舎でもそれぞれ婚活イベントをしており、年6回は市主催のイベントがあります。2月24日には、仕事で忙しいなどの理由で本人が参加できない場合もあるとのことで、親御さん同士での話をさせていただく親コンという取組みもします。それから、地域振興課で事務局をしている「つるおか婚活支援ネットワーク」というものがあります。趣旨に賛同していただいた企業や団体などから加入いただき、婚活に関する情報交換や、ネットワークでの企業コンも実施しております。去年はネットワークに入っている民間の団体が、庄内コンという街コンも実施しております。いろいろご意見をいただきながら、来年度以降も実のある方向に進めたいと思っております。また、これからの議論の参考になればということで、市の取組みについて説明させていただきました。

○ 山田登分科会長 鶴岡市の婚活という面からの人口増という取組みでした。この分科会で掘り下げていくテーマについては、先ほどのまとめや茅野委員からの3点について意見がありました。本間委員からは、その地域の実態を把握しながら話し合いを進めていく必要があるということも、人口減少というのも一つ大きな課題であると思います。それだけでなく、高齢化についても忘れないできちんと取り組んでいく必要があるのではないかとこのよ

うなご意見もありました。

○ 稲泉眞彦委員 これまでの主な意見にある人口減少から地域のつながり、コミュニケーションや情報まで、大きな問題で簡単に解決しないことは覚悟して出した課題です。それに基づいて、今後の議論の展開として、住んでよかったという地域づくり、幸せに暮らすことができる地域づくりに向けてとありますが、その通りだと思います。自分の地域がいい所で自分は幸せだと暮せば、人口が少なくても、多少の不便でもと考えていいと思います。できれば、人口を減らしたくないということです。

そこで、働く場の確保ということが話題になっていますが、庄内地区の就職決定率は私が高校に勤めている間、常に県下ではトップでした。製造業で言えば、日本の産業と同じなので、日本の景気が悪くなるとここも悪くなる。そして日本の産業が回復してから回復することではありましたが、飽海よりも鶴岡、田川地区のほうがずっといいという地域でした。今年はこの不景気の中では良くなっていますが、そこで働く場があったのは何だったのかと考えると、製造業であれば誘致企業がたくさんここにあり、それは東京に比べて賃金が安いということはあると思います。しかし、暮らしやすさというと、例えば福井県は全国一暮らしやすいということで評価されていて不動の地位にあります。と同時に高校生の就職率も平均していいし、地元にも企業があるということがずっと続いてきて、働く場があるから若者が地元でも働ける。関東、特に関西が近いということで、土曜と日曜に帰って親と一緒に暮らせるというような地理もあるかも知れませんが、今までは企業誘致ということがあったわけです。山形県は社長さんになる人が、全国一多いという状況にあります。そうしていくと、山形県が素晴らしい状況で評価できることは、1世帯の平均人数が全国1位で、持ち家住宅の面積は3位、自動車の所有数も全国1位だったはずです。

以前もお話ししましたが、親が施設に入院したりした時に、東京や大阪などにいる親戚が見舞いに来ましたが、その時にすごい市だと驚かれました。東京ではこんな施設はとても入れないし、入りたければ自分で何千万円ものお金を確保しないと自分の老後は保障出来ないし、保障もしてもらえないといった話しをしていました。私は今の山形県、庄内にはいいことがいっぱいあるのではないかと思います。私どもが若かった時、学校の先生の給料は安く、主任教授からは安い給料の職種をなぜ選ぶのかと言われてたりしましたが、自分は故郷で働くことと、教師をやりたいと思ってきました。学校の先生になった時、保護者の人柄が極めて良かったです。当時は、農村が豊かだった頃の庄内の人は本当に人柄がよくて優しい。包容力があり人のこと良く考えてくれましたし、食べ物が美味しかった。あるいは自然が、海、山、平野、川も豊かにある。今であれば森林が70パーセントあるといった良い点を、もっと市で前に押し出すべきだと思います。人口が減ったとか住みにくいというのは、人は住みません。こういうデータが市民に知られていないのではないかと思います。先ほどの保育園の話でも、場所さえ選ばなければということもありますが、今鶴岡市で自宅待機の子どもは多分いないのではないかと思います。よって、ここの条件は悪くはないということをもっと徹底して、この住んでよかったという、その良かったというのは何なのか。そのことを前面に出して市に施策を徹底してもらおうということです。

それから、私どもの体育協会では来年度4月から、市の体育施設を管理運営していくことになっています。市としては経費の節減があるでしょうが、我々は安く運営するというのではなく、先ほど後藤委員がおっしゃった健康で暮らす、病気で何年も寝てしまうのではな

く、健康で一年でも二年でも長生きする。例えばスポーツやレクレーションを通して、元気で生活できることに取り組んでいかなければ、我々がやる意味がないと思います。そのようなことを考えて、もう少し住んでよかったというのが一体何なのか、我々市民として何も求めるのかということです。定年になってからですが、働いていた時より以上に老後は大事なのではないかと感じます。ますます厳しくなっていく世の中で、物やお金にこだわっても幸せになれないと思います。やはり物やお金でない幸せはどこにあるのか。私はその時に外国のことが思い浮びました。旅行で訪れた外国の中には、ここに比べて思い出に残るような食べ物はありませんでしたが、皆は幸せだと言って暮していました。市民として心の幸せ、住んでよかったと思えることは一体何かということ、もう少し例を挙げて、それを市として本気で取り組んで欲しいということが大事だと思います。私の知っている方も関西からこちらに来て一生懸命働いておられますし、市外から来て町内会長をされたりしている人などたくさんいます。そのような方達の話聞いてみるのもいいのかなと思います。福島からも来られて住んでいる方にも聞いてみれば、ヒントが得られると思いますので、この住んでよかった、幸せということ、市として取り組んでいくことに、我々として提言したらどうかと思います。

○ **山田登分科会長** 大部深まった話し合いになったかと思いますが、やはり鶴岡市としてこうありたいという提言の中身まで、私達が考えてまとめていく必要があるのではないかと思います。骨子的には提案された内容でいいと思いますので、これをもっと分かりやすく、提言できるようにということで、これからも話し合いを深めていきたいと思っています。他にあればお願いします。

○ **竹田理英委員** 稲泉委員の話しを聞いて、金銭的なものではなくて、ここにいる幸せというものを今教えていただいたようで、そういうような提言を、ここにいる皆さんと一緒に意見が出せればと思いました。期待がもてる、住んでいてとても上向きになれるという話を伺って、住んでいて良かった、もっと住んでいたいということ、もっといろんな人に伝えていければと思います。

○ **山田登分科会長** 住んでよかったという期待感を持てるということを明確に表していくという、鶴岡に住んで悪かったではなく、自信を持っていろんな面で発信していく積極性というものを表現する必要があるのではないかと思います。

○ **齋藤春子委員** 人口減少の話も出ていますが、今まで話してきた地域づくりとも含めた形で出さなければと思います。

○ **竹内峰子委員** 住んでいて良かったという部分はとても大事なことだと思います。子ども達と一緒に生活しています。一緒に暮らすように育てたわけではないのですが戻ってきました。私も元々三瀬の住民ではないのですが、夫の兄弟たちは三瀬にいたかったと言います。向こうにいると三瀬の良さが一番伝わっているのかなと感じます。今、年老いてきた方々が田舎暮らしをしたいというような声を聞くと、やはり、来てみて、行きたくなるようなものなかに町々があるのかなと。特に鶴岡においてはよく行ってみたいということ聞きます。

友達などにいろいろ送ったりする中で、山形がテレビに出ることで、どんな町なのだろうと、すごく興味があるということで、もし家を建てて住めるのであれば、是非そちらのほうに行きたいねという声が出てきたのかなと思います。三瀬においては、やっぱり地域が隣近所の仲がとてもいいです。お互いに助け合いながら、生活をしているというところがすごく伝わってきます。その中で、それぞれの役割分担、今、この年齢になって、近所のお年寄り達の話相手だったとか、いろんなことが出来るなかで、夫も退職してから、隣近所のリーダーになりました。隣近所のおばあちゃんの一人暮らしの家が多い中で面倒を一手に引き受けています。山菜をとってくれば、隣近所に配って歩く。昔は載っていたものが今は逆になっているという中で、ものすごい隣近所の、隣組というものがきちんとつながってきたのかなと感じています。その中で、息子達は鶴岡に家を建てているけれども、一人だけどもここに住んでいて良かったという声が、とても聞こえるようになりました。こういう形で鶴岡はいいところだということを外にも発信しながら、先ほど、大学を出てなかなか鶴岡に戻る、働き先がないかも知れないけれども、やはり先々、大きなことをやりたい人はいるでしょうが、家族と一緒に暮らしていきたいというような子育ても一つあるのかなと感じています。子どもが小さい時に、おじいちゃん、おばあちゃん、お父さん、お母さんと暮らした子の家で、自分も親の恩義を見て、家を守るというような、気持ちが自然と生まれてくるのが、一番望ましいのかなと。決して帰って来いと言っても帰って来ないかも知れませんが、やはり、そういう気持ちの子どもに育ててあげるのがいいのかなと思ったところです。

○ **山田登分科会長** この分科会はコミュニティ分科会ですので、コミュニティづくりと言いますか、人間関係が素晴らしい地域の中で育ったという、自信の持てるまちづくりにしていきたいということが、皆さんの考え方なのではないのかなと思います。従いまして、住んでよかったという地域づくりの、どういう場合に住んでよかったと思われるのか、また幸せに暮らすというのは、どういう場合が幸せなのかといった面を具体的にして発信していく。自信を持って鶴岡は良いまちだということが発信できるような形にまとめていくことが大事なのではないかというご意見が大方だったのではないのかなと思います。そういう形の地域づくりについては、具体的には、情報収集とか様々な、そういう課題もあるかなと思いますので、そういったことも今までも、良い情報収集、具体的な事例があるかなと思いますので、そういったこともまとめていくということです。

○ **茅野進委員** 地域コミュニティ基本方針案を読んで、課題は人口減少と高齢化の進行の両面があると思います。おそらく高齢化率が十年後には30から40パーセントになるという。今50パーセントの町内会もあり、半分以上の年寄りを支えているということから見ても、伊藤委員からありましたが、先進事例などのノウハウと情報収集などして、こういう点が悪くて、こういう点が悪いという具体的な事例を出さないと、いつになっても総論的な話になってくるのではないかなと思います。

○ **稲泉眞彦委員** 鶴岡市の優れた点、他市や他地域に誇れるようなものは一体何があるかということで具体的なデータと、山形県で「山形県勢要覧」、3世代同居や持ち家その他のデータと全国と比較した資料がありましたので、次回、そんなに詳細でなくても構わないので、準備していただければと思います。

○ **後藤輝夫委員** 老人クラブは全国的に会員もクラブ数も減少しているところです。50年間の歴史を持っていながら、これを再生するために、鶴岡市老人クラブ連合会、並びに鶴岡市支部、私の地元でも、統一したテーマのもとに取り組もうとしているのは、元気と若さで盛り上げたい、会員の自主的な連帯感を持った活動を展開しようとしているところです。例えば、草冠の若いと言う字ではなく、壮年の壮という字を使っての名前にするとかして、老人クラブの名前に抵抗を持っている人たちの、参加を促し活動に参加させたいという気持ちであります。稲泉委員からありましたが、まず、健康と住む地域、鶴岡に誇りを持ってコミュニティを盛り上げようというテーマがあつて然るべきではないかと思ひます。

○ **菅原衛委員** 今後の協議の進め方として、例えば6回目はここまで、最後の取りまとめはどこまでと示していただけると、議論がしやすいのかなと思ひますのでタイムスケジュールを教えてください。後藤委員から、若い人が定着するための施策を出来るだけやっていくというお話がありましたので、自分の周りにいる高齢者の方々は、ご商売も元気にされていて、自分で選択肢を持ってきてきた方が多いので、逆に、若い方、中学校、小学校やその下、また婚活も含めてですが、まだ選択ができない子供達に、いろんな場を与えたり、きっかけをつくるというための予算措置に力を入れていただければと思ひます。

○ **三浦裕美地域振興専門員** 会長から市長に提言書を提出していただく日程として25年12月中旬頃を考えております。今まではいろんな課題を自由に意見を出していただきましたが、次回から2回程度は、今日の議論を踏まえて、また資料も準備させていただきながら、住んで良かったとなるための具体的な案を出していただいて、積み上げが出来ればと思ひます。先ほど、後藤委員から産業経済分科会と一緒にという話もありましたが、産業経済分科会では、産業という視点から人をこれ以上減らさない、出来れば増やしたいということで、働く場、新しい産業、雇用の場をどうすれば、外から人を呼んで来られるかということで議論をしております。地域コミュニティ分科会も、同じく、人口減少の中でこれ以上人を減らさない、出来れば増やしたいということで、そのためには、こういう地域だから、PRしなくても鶴岡市は評判が良くて住みたい、こちらに来たいとなるように、また若い人でも年をとった方でも、鶴岡に来て住みたいと思ふことが、地域づくりやコミュニティの活性化につながるのではないかなということ、コミュニティ分科会の観点は、産業や雇用とは違ったところから進められればと事務局としては思っております。

○ **山田登分科会長** ただ今説明がありましたが、コミュニティ分科会の視点から今後まとめていくことになると思ひます、今日の話し合いの中で、具体的な資料に基づいて町内、自治会の数や状況、状態を深く知った上で話し合いを進めたい。それから、鶴岡の良さというものを、前面に出すには他のまちと違って、鶴岡市独特の特徴や良さをもっと明確にしていく必要があるのではないかなということもございましたので、そういった資料があれば、それを基に論議を進めていくということです。コミュニティ分科会ですので、人口減少というのは確かにありますが、住みよいまち、鶴岡に住みたいというまちづくりをしていくという視点を大事にしていく必要があるのではないかなという論点も今後継続して、審議をしていくということになるかと思ひます。今日は充実した話が展開されたのではないかなと思ひます。本当に長時間ありがとうございました。

分科会

<産業経済分科会> (座長：今野毅分科会長)

○ 三浦総一郎地域振興課長 (資料説明)

○ **今野毅分科会長** 雇用の確保、雇用の創出をどうするのか。企業誘致するには産業の創出、また地場産業の後継者不足をどうするのか、どのように補っていくのか。それから、住む場所をどのようなものになるのか。情報発信の仕方や鶴岡の魅力をどう伝えていくのか。若者、子ども、いろんな人たちへの体験学習、体験就業や体験観光などについて、本当に多岐にわたり意見が出たということです。これらを、整理し体系的に方向づけていくわけですが、今日どうしましょうかと言っても直ぐには出ないと思いますので、皆さんには、それぞれ持ち帰っていただきながら、今日出る話も含めて、今後、どのようにして、自分たちのジャンルの中で、体系付けられるかということのを思いながら、今日話をさせていただければなど今思ったところです。ほぼ課題等の議論は出されましたので、方向性としては定住化、あるいは人口を減らさない方法はどうかとなるわけです。例えば、こちらに呼び込むためには自分であればどうコーディネートするかなどをイメージしながらお話ししていただければと思います。最初に五十嵐委員のから提案がありますのでお話を願います。

○ **五十嵐吉右衛門委員** 林業に対しての関わりから私の考えの一端を明示させていただきます。鶴岡市では森林文化都市構想が示されており、森林面積を7割占めておる資源を、地域の資源として保全、活用するとしています。そこで申し上げるわけですが、今現在の森林の、山における現場における実態は、長期に渡っての木材価格の低迷で、山林保有者の林業経営状況は大きく低下しております。下刈り、枝打ち、間引き等森林整備が行なわれていない状況で、持続的に森林を活用するためには、森林整備が必要で、特に、間伐、間引きの実施が急がれております。間伐材は、小径木で曲がったりしていて、商品価値が低く伐材搬出の経費ではとても賄えないということで、あまり山に手が入らないような雰囲気です。そのようなことから、今後、森林資源の利用と間伐の有効活用を考えると、森林資源を間伐材とし木質バイオマスとしての利用があります。木質バイオマスボイラー、木質バイオマス発電が、今現在なされているところがあります。また、木質バイオマスボイラーの熱利用としては、施設の暖房、道路の消雪等がありますが、木質バイオマス発電は、再生可能エネルギー固定価格で買取制度ということも考えられます。そういった利用により維持経費の低減が可能となり、発電施設とともにその燃料として林地残材が使われます。捨てられてきた間伐材や林地残材の有効利用の道が開けば、商品価値がつき、森林整備が進み荒廃森林の解消につながるとともに、地域林業と中山間地域の活性化や雇用の創出、また、地球温暖化防止につながるものと考えられます。こういったようなことから、人口の定住化、あるいは雇用の創出といったようなことが考えられるのではなかろうか思った次第です。

○ **今野毅分科会長** 間伐材を含めての森林資源、再生可能エネルギーへの転換、発電施設を含めて、そうすれば新しい需要が生まれ、雇用が生まれるのではないかというようなお話

しだったと思います。後ほどまた皆さんから意見をいただくこととして、今間委員から、定住化という大きなテーマの中で、この地域への定住化というものを、本気で形として実施するには、こういうことが必要なのではないか、また今、こういう問題があるので解決しなければならないなどお話いただければと思います。

○ **今間智寛委員** 私も仕事柄いろんな方達の話を知ることがありますが、その中で子どもが大学で東京に行って帰ってこないという話が出ます。それは何なのかと考えると、魅力のある仕事がないのかなど。そういった魅力のある仕事や産業というものを鶴岡に持ってこない、若い人は戻って来ないのではないかと考えています。旧市内も郊外地も、空き家が多くなってきて、この空き家をうまく利用できないのかなと思います。利用出来ないのであれば更地にして分譲した方がいいのではないかと感じたりしますが、鶴岡市の方でも考えているということですが、結婚して家を建てたいという若い夫婦がいても、経済的なことでローンがなかなか組めない場合があるということで、せっかく家を持ちたいと思っても持てないという人が多いという話も聞いたりします。空き家などをリフォームして販売するという方法も家の活用としてあるのかなと思います。

それから、今、フェイスブックからの情報がすごく入ってきますが、例えば、たくさん人と呼べるというようなことで、JCで事業のPRなどをしますが、最近フェイスブックをしている人は、ものすごく向上心を持っている人が多いのではないかと感じます。いろんなことに敏感に反応してくれます。鶴岡市内の若者から興味を持ってもらう方法となると、フェイスブックだけだと厳しいのかなというふうに思っていて、もっと巻き込んでいくにはどうしたらいいのかと考えています。

○ **今野毅分科会長** 経済的な状況等は確かにありますが、その方達が家を建てたいと必然的に思う中でどれくらいの割合か分かりませんが、お話されたように空き家などが、例えば、今後の使用に耐えうるものが1000くらいあり、そういったところを事業化するなどを考えた時、奥山委員からこちらに来るにあたっての経験なども踏まえ何かありましたら。

○ **奥山春名委員** 私達の場合はリフォームされた家も見ましたが、自分の欲しい家にするには、自分達で手直しをしていくというのが基本的な考えでした。空き家になっている家を購入して自分達の手で直して、自分達らしく住みたいという目的があります。リフォームされてしまっている家ですと好みの色でなかったり、自分の感覚にじっくりくるものがなかったりします。いい大工さんは鶴岡にたくさんいらっしゃると思います。私も何人かお会いして、情熱のある方、私の仕事に共感もって一緒にまたやりたいといってくださいの方等がいて、そういう方達ももっと腕が振えるところがあるのではないかと感じます。林業のことも、たくさん木があり恵まれているのに、低価格で収入にはつながらないというお話しで、どうしてかということを見ると、例えば、家を建てる時、地元にはたくさん大工さんがいますが、ハウスメーカーに頼んでいる状況があるかと思っています。ハウスメーカーさんは独自の手法やいろいろ工夫されて、木材等を調達していますが、鶴岡の木材、自然を大事にしている大工さんたち、それに関わる森林関係の人たちの雇用という部分でも大事にしていくのであれば、そのことを根本的に考え直さなくてはいけないのかなど。木材が安くて売れませんかというのでは何も変わらないと思います。例えば、リフォームという分野を設けて、リフォームの専

門家を育成するのか探すのか、そういうコーディネートが上手な方もいると思いますので、そういう方法を1つとるとか、専門的に分からないこともあります、漠然と考えています。

○ **今野毅分科会長** 商工会議所さんには業者の方々がたくさんいますが、地元の職人さんをどうすればコーディネートできるとか、空き家をリフォームするということをビジネスに出来ないかということですが。

○ **早坂剛会長** 先ほどの五十嵐委員の話しに関わっていくと、こちらの方にも少し繋がっていくのかなと思います、鶴岡市の70%が森林です。森林があつて材木があつて、なぜそれを活かさないのかなと思っています。大部前のテレビで、ドイツの森林の番組を見たのですが、地元の材木を活かしながらきちんと産業にしている。日本は輸入材を型から何からある程度、半製品みたいに作ってきたものを安く仕入れている。それを皆使ってしまうようなところが森林をだめしているのかなと思います。森林を産業にさせる方法は何かないのかなと思っています。それは一貫して地元材を使うとかということに派生してくるかと思いますが、何とか採算にのせて産業にする方法というのはないのかなと思います。

○ **五十嵐吉右衛門委員** これまで安い外国産材木が入ってきた経緯もあり、今現在、山に木材が非常にたくさんあります。先ほど話したように細い木材、曲がった木材を全部捨てています。それを利用する。資源を大事にして利用しながらエネルギーに変えるのがバイオマス発電です。参考に福島の子津にそういう木材で発電する会社があり、去年の12月に行ってきました。それは国からの補助金を利用しながら昨年からの発電所が稼動し、現在活用しない木材を利用しながら、半分以上をエネルギーに変えている。いい木材については住宅に使う。つまり一級品は住宅に使い、二級品はパルプ関係に使って、あとの半分以下は発電に使う。こういう発電する場所があれば、山の経費にもなるし植林をしながらサイクルの計画も立てられる。スギの山林がありますが、鶴岡市でも大規模でなくても考えていくべきではないかと思っています。

○ **早坂剛会長** エネルギーに変えるというのは燃やすということです。チップにすることは最終的にはいいと思いますが、例えば木製の家具などの見方や価値観が分かるように、一般の人たちにも教えていく。例えば一般住宅にも地元の材木を使うことに価値があるのだという価値を訴えていくことがなければ、国が発電のためだったら補助金を出すとかではなく、地方の特性を生かして、ここでなければならぬようなそういうものを作っていくということが大事なことなのではないかと思っています。国の補助金の考えは画一的な感じがして、奥山委員が言われたように、自分達が思うような家を作りたいとか、家具とかで育成するような、地域ぐるみでやっていくということ、今動き出していないとだめなのかなと。そういう中で産業をつくっていくことがあれば、逆に魅力を感じて人が来るということで、独自性も地域でどうやって出すかが、大事になってくるのではないかと思います。

○ **今野毅分科会長** 地域に特色のある森林づくりをしたら何だろうと考えますと、例えばケヤキやメイプルシロップなどの木を植えて、もっと長期に渡って将来産業になるようなものを森林として作っていき、家具なのか角材なのかは分かりませんが、農業は種をま

けば1年くらいで結果は出ますが、一朝一夕で出来ることではありませんので将来に向けて作っていく。それが今までは、スギの植林に進んできたこともあるのかも知れません。それがまさに我々が地域で考える地域にあった森林なのかと思います。そういうことで家具職人を育てていくとか、あるいは漁業に結びつくことがある森林造成をしていくなどあるかと思います。木を植える素材として売る。会長が言われるようにそこに付加価値をどう付けるか、産業を育成するというのがまさに森林を活かす行政であったり施策なのだと思います。

○ **三浦総一郎地域振興課長** 先ほどありましたドイツとの日本の森林は、地形や背景が違いますので同じようには出来ないのかなと思います。

○ **五十嵐吉右衛門委員** 新聞にオーストラリアのある州で、森林をエネルギーに使うということで、家庭用ボイラーを使っている人のことが出ていました。森林を熱源として利用する話だったと。

○ **今野毅分科会長** 自分でホームメイド的にリフォームする場合などに、鶴岡材はここで調達できるとかなどの冊子などを作って啓蒙していく。それも活性化になるでしょうし、そういう情報発信があれば相当の需要が喚起されるのかも知れません。

○ **奥山春名委員** オーストラリアの話が出ましたが、オーストラリアにバイロンベイという所があり、観光として人が来てくれる時に、何が重要で何が必要でないかと厳選して町を作り、その先に成功があったということを取り上げていた方が、町としてのあり方というものに興味を持ったというような話を思い出しましたが、例えば、信号とかコインパーキングを設置しない、ファーストフード店や高い建物も作れないというような条例があって、そうやってまちづくりをしているらしいのです。いろいろ条件は違うと思いますが、市をあげて何かにこだわった作ることが出来たらいいのかなと思ったりもします。どこかの真似ではなく、自分達にとって何が必要なのが大事なのかなとも思います。観光で人を呼び込むために宣伝も大事ですが、人が来てくれるということは、何か面白そうだから行きたいよねということです。それには、ここに住んでいる人たちが楽しくて住みやすくという場所でないと、観光としても魅力がないと思います。人が来るように何かを建てたり、宣伝したりする前に、鶴岡市民にとっては本当に何が必要なのかなというのをよく考えるべきではないでしょうか。根底にある自分達に何が必要かというところを考えると、残していくもの、大事にするものが見えてくるのではないかと思います。

○ **今野毅分科会長** まちづくりと観光についての話がありましたので、観光に必要な、楽しい地域、観光や旅に行ってみたいなど、コンセプトとして何かあるでしょうか。

○ **三浦惇委員** やはり行って見て、何か魅力的なものがあるからということが増えていきます。どういう形で目立つかということで、10年ぶりに山形でディスティネーションキャンペーンがありますが受け入れ側の体制。そのためには自分達自身が知らなければ出来ないわけですから、そこをどうするかです。広域観光圏が点と点を線で結ぶ、それから横の広がりをするか、そのためには鶴岡はこうだというのがなければと思います。

○ **今野毅分科会長** 豊かな海づくり大会について、会場もまだ決まってないと思いますが漁業と結びつけた森林、海岸十いくつとか、それを三浦委員の言葉を借りれば点と点を線にするという、この山形県唯一の海岸線を持っているということ。

○ **田村勇次委員** 豊かな海づくり大会ですが、これから県を中心に開催会場や日程を、再来年度には決定するような話を聞いております。また26年には金山町で全国育樹祭が開催されるとのことで、それをステップに2年後の豊かな海づくり大会につなげればと考えていました。

○ **今野毅分科会長** 先ほど森林の話で少し言いましたが、森林づくりと海づくりで、森林資源と漁業資源の関連性というのは何かありますか。例えば漁師が植えて美味しいカキが出来たとかテレビでやっていますか。

○ **田村勇次委員** 科学的な根拠はよく分かりませんが、太平洋であれば養殖ガキですから密接な関係があると聞いています。

○ **三浦総一郎地域振興課長** 鶴岡でも魚の森づくりというのをしています。山が豊かなところは、栄養分が海に流れ豊かになると言われています。

○ **今野毅分科会長** 実際森林面積が7割と言われてもよく分からないのですが、山を豊かにしていく地域が、これから大きな資源になると。観光の部分で、先ほどディスティネーションキャンペーンのことがありましたが、商工会議所さんや、あるいは他産業なり他業種を含めて、そういうことであればこういうふうにして誘客、交流人口、あるいは定住人口に結びつけるとかありますか。

○ **早坂剛会長** 今年が6月から9月までプレディスティネーションキャンペーンがあります。来年が本番で6月中旬から9月中旬までの夏の一番いい時期です。庄内観光コンベンション協会でもいろいろ考えていますが、どうすれば内陸から庄内に入ってくるのかとした時、やはり母なる最上川を下ると日本海というテーマで、何とか夏の日本海にお客さんを案内させる。日本海のきれいな夕陽をメインテーマにして庄内に呼んできたいと考えています。内陸の人には海という考えは出てきません。以前、山形県には海がないと思っている人がいるとの話がありましたが、例えば、花笠とさくらんぼのポスターを東京に出しても、花笠は遠くからでも目立つでしょうが、さくらんぼも山形だけでなく長野にもあります。それから、さくらんぼも花笠も時期的にも一過性です。日本海と最上川と出羽三山という、これだけの自然をいかにPRするかというところを一生懸命考えていますが、その中で観光も含め、いろんな産業をもう一回深掘りしてみたらどうなのかなと思っています。例えば、つや姫を宣伝していますが、これから何か派生するものはないのか。これからの観光は、個人の価値観や自分の好きなこと、何が何でも是非見てみたいといった目的を持った観光が多くなると思いますので、大枠で「出羽三山が」「日本海が」ではなく、夕陽では、トレッキングではとか、いろんな産業もですが、もっと売れるにはデザイン性はどうするかなど、皆で考えていく町にすれば、商品価値が出てくるのではないかと。他の町と何も変わらなかったり、特徴

が無いようなことにしないためにも、もう一度素材の深掘りをする。

それから、昨年京都に行きましたが、観光でこんなに来るのはなぜか、鶴岡と何が違うかかと思った時に、日本一の観光地ですから全国から世界から人が集まってくる。伝統的な日本の神社・仏閣・歴史文化から着るものや食文化など、いろいろなものに根強く伝統的に技術が伝承されてきた。例えば任天堂や京セラといった一流の企業が、京都に本社を置いているのは何なのかと思いました。京都までとはいかないにしても、鶴岡にも歴史文化や特徴のあるものがあります。その周りに農業を含めて、産業をいかに張り付けていくか、ここはこんなに住みやすいところだとすれば定住人口も増えていくのではないかと思います。これから鶴岡が目指すのはミニ京都だと少し考えていたのですが、そういう産業や町の構造を、先ほども言いましたが深掘りをしながら、もう一回見直して産業に生かせば、もっと面白い町になるのではないかと思います。

○ **今野毅分科会長** 鶴岡の食文化で特徴的なことは何だろうと考えると、当然米であり酒でしょうが、それでもお酒は蔵元が昔に比べて少なくなっていく。でも今一生懸命頑張って復活したお酒もあつたりします。あと他に米もどれくらいの魅力度が産地としてあるのか、人を呼び込むだけの魅力がどれくらいあるのかです。

○ **早坂剛会長** いいものを作っている人は、自分たちの作っているものの良さや価値をあまり感じていないような気がします。外から来る人たちの方がその良さを認めているので、外からの人たちから教えられるというのが多いかと思います。そういう目を向けて来ていただければファンになってくれると思います。

○ **三浦総一郎地域振興課長** ここに住んでいると当たり前すぎて、大人なって他の地域の人と交流をしたり鶴岡から出て始めて、良いものとか美味しいものを食べていると思うのかも知れません。

○ **今野毅分科会長** 皆さんがよく聞く何を食べても美味しいというのは、何かということです。地域全体の努力なのですが、今の話でいろいろ出ましたが、鶴岡、庄内でもいいですし、豊かな一次資源の地域の中で生まれるものは食文化であり、それに付随する食だけでなく文化を持ったこととか。

○ **奥山春名委員** 鮮度はかなり高いですが、それは庄内だからということではないと思います。会津若松の方が美味しいなというものもたくさんあります。野菜も果物も豊富で、お酒もお米ももしかすると美味しいものがあつたかとも思います。畑がたくさんあり、すぐに作って食べられる美味しさと言うのは格別だし、それは会津でも他の場所でも同じだと思います。庄内は強いて言えば海もあり山もあるという組み合わせが、成り立つというのはかなり高いと思います。それから若い人たちには農家になれというのではなく、農作業をして欲しいと思います。畑でつくっているのは、大体おばあちゃん達が多く、次の世代と何かしらのつながりを作っていけないと、伝えられなくなります。皆さんスーパーで買いますし、庄内産とは限りません。そうすると庄内の味は忘れていく。この間、自分のところで作ったネギを採ってすぐ食べたら、こんなに美味しいものかと。食べた事ないくらい甘くて、中のどろ

どろの汁が栄養もあるということで驚きましたが、単純にそういうことだと思います。新鮮なものがすぐ体の中に取り込めるということをやささないとか、伝えていくことがまず大事だと思います。

○ **今野毅分科会長** なすやきゅうり、トマトとか自分が作って美味しいものを人にあげたいとか食べさせたいというのは、自分にとっては単にそのために作るだけだけど、それは文化なのかもと今話を聞いて思いました。

○ **奥山春名委員** 庄内はすごく強いかも知れません。たくさん作っても食べられないし、持って行ってと言われたりもします。でもそれが鶴岡のポイントかも知れません。

○ **今野毅分科会長** 観光と農業で、今までに何回か体験的というお話しはありましたが、もう少し惹きつけるものを開拓創造しようとか、何かありますか。

○ **三浦惇委員** 仙台の修学旅行生を呼んで、それが将来に向けてとなるわけですが、去年は何件か櫛引でありました。そこで、農業と観光を結び付けると言った面に延長することは出来ないかと考えていました。それからもう一つですが、去年、仙台と新潟の方で観光懇談会をしました。出来るだけお酒、だだちゃ豆、米などを持っていき、ホテルで調理して紹介をしながら出したりしましたし、クラゲアイスも持っていった時は、最初は随分遠慮して食べなかったです。地元の食べ物、食文化などをどう紹介しながら観光に結びつけるか。やはり、修学旅行、中学校が中心となりますが、修学旅行生を対象にしながら体験を受け入れて、観光に結びつけるようにしていきたいと思っています。

○ **早坂剛会長** 今、鶴岡市には観光客はどのくらい来ていますか。

○ **三浦惇委員** 県の統計ですと平成23年度は合計で約530万人でしょうか。

○ **三浦総一郎地域振興課長** 海水浴客やスキー場の人数も入っている数字になります。

○ **今野毅分科会長** いろいろ関連付けて話をしてきましたが、他にありませんか。

○ **田村勇次委員** 食文化の話がありましたが、庄内には美味しいものがたくさんあり、特に水産物は誇れる特産物だと思いますが、なかなか上手く情報発信が出来ていないのではないかと思います。どの魚にもそれぞれの旬の時期がありますので、旬の時期、旬の魚をもっとPRしながら情報発信していければと。それが少し足りない感じがします。

○ **今野毅分科会長** どの部分で足りないのでしょうか。

○ **田村勇次委員** 漁協でもやっていますが、行政の部分が足りないかと感じます。例えば去年の1月中旬に東京に出張があり時間がありましたので、銀座のアンテナショップに立ち寄ってみました。何かのイベントがあったようで、並んでいる人がいたので何だろうと思っ

たら寒鰯汁を振舞っていました。確かここ1週間位はずっと「しけ」だったのでよく出来たなど。お客さんに感想を聞いてみましたが、あまりいい反応ではありませんでした。やはり、誘客するのであれば、美味しいものを食べられるということで、庄内に行ってみようかと思わせるような情報発信をしないとと思いました。

○ **三浦総一郎地域振興課長** イベントの日程は動かせないなので、旬のものを出そうとするとなかなか難しい現実があります。ただ、お客さんはそういうことを期待して行きますので、その分、そんなに美味しくなかったということになってしまうかも知れません。

○ **五十嵐吉右衛門委員** 情報発信、PR関係や宣伝などがと上手くつなげていかなければと思います。その辺を誰がするかが問題で、窓口を今後どういう形で持っていく、全国あるいは世界中に発信をするようなシステムづくりが必要になってくると思います。

○ **今野毅分科会長** 先ほどの県全体の観光客数ですが、年代別は分かるものですか。

○ **三浦惇委員** 鶴岡市や羽黒山などに何人来たかは分かりますが、年代別は分かりません。市の観光物産課ではどこから来ているかを調査したようです。それから、キャンペーンで長野や関東に行っています。冬まつりが終わってから北海道へも行きます。冬なので寒鰯汁とか宣伝になるかと思っています。

○ **奥山春名委員** 何かつながりや絡みがないと、寒鰯汁だけで遠くから来るとなると難しいかと思います。最近、水族館の館長さんとお話する機会があり、鶴岡ですべて食べてきて美味しいし、もっとお店も紹介したい、観光と水族館を結びつけたいとおっしゃっていました。私はフェイスブックもいいですが、私は人と人とのつながりが一番伝わると思うので、それをもっとやって欲しいし、鶴岡の方は温かいので、どんどんつながっていくと思います。システムを作らなくても、ここにおられる皆さんが集ることで、それがシステムになっていくのではないかと私は思います。たいしたことではないと思うことでも、会って何か話す。それが始まりのすごく大事なことかなと。

それから、私の専門の部分になりますが、水族館のまちづくりの一つとして、今大きい建物を建てるわけですが、サインいわゆる看板ですが、道のサインや公共的な場所の案内板も含めて、サインの見直しと計画というのは、すごく大事なのではないかと考えています。個々のものはそんなに経費が掛かりませんし、サインというのは、何かしなさいとか、やっていけませんと強く言うものではなく、そこにたたずみ、声を出さずに人々にいろんなことを教えたり案内するものです。子どもから大人まで、おじいちゃんおばあちゃんにも伝わるもので、観光にも役に立つと思いますが、建てて直ぐに結果が出るものではないですが、これから、ますます人が来てくれるようになった時にも、例えば、加茂水族館や道路の案内表示が、すごく親切だと、水族館に行くだけではなくて、その途中にこんなものがあるということが、町の中を見ると分かるといったことが、今回の内容に含まれたらと思います。店舗や会社のサインといった看板のようなことにつながっていくかも知れないし、何か統一性をもってやると長期にわたっての効果があると思います。

○ **今野毅分科会長** 物言わずして人に様々なものを伝える。それは建っていることも、観光案内と関連として、まちに対するコンセプトとしてそのような仕組みを提言していくということです。まだまだ話し足りない部分あると思いますが、これだけは話しておきたいことがあればお願いします。私から一つ今間委員に聞きたいのですが、フェイスブックをしている方たちが向上心があるとお話でしたが、どのような感じなのか教えていただければ。

○ **今間智寛委員** フェイスブックをしている人が、地域のためにいろいろしている人が多いです。鶴岡の人は結構一生懸命、いろいろやっている人はもの凄くやっていると最近実感しています。それ以外の人たちを、例えば、もっともっと地元のことに関心を持たせるような、巻き込んでいくために、もっともっと地域のことに関心を持たせるというのは、大事なのかなと最近思っています。

○ **今野毅分科会長** どういう仕掛けをするかということだと思います。例えば、好きなこともあって、地域で様々なことをやるということなのでしょうが、いろんなことを地域で、趣向でやってみて、結果として、するのではなくて、そうなったということなのかと思います。今年度最後でしたが、この資料や今日の話も含めて、最初に皆さんにお願いしましたが、この次まで、大体で結構ですから、自分に関わるジャンルで、どんなものが体系的に出来るか考えていただきながら、次回に話し合いが出来たらと思います。